

疑問持ち別の発想を

日本建設技術 技術成果発表

日本建設技術(佐賀県唐津市、原裕社長)は13日、同市の唐津シーサイドホテルで、グループ会社による2019年度(第16回)研究成果発表会を開いた。山下雄平参院議



講演する原社長

員ら国會議員、加藤合同国際特許事務所に加藤久所長など来賓を含め約190人が参加し、目標に向かって技術力を磨くことを誓った。

冒頭、原社長は新入社員に対し、「仕事の全体像をとらえる力、段取り力を身に付けてほしい」と訴えた。そのために、「言われたことに疑問を持つこと。そうすれば想像力がついてきて別の発想が出

てくる可能性がある」と述べた。その上で、「当社はミラクルソルを研究・開発したオンラインワンの企業だ。新しいアイデア、工法が生まれるのを楽しみにしている」とあいさつした。

成果発表では、原社長が「18年度のあゆみとFWG・透保水性舗装工法」と題して講演した。この中で、通常のアスファルトに比べて最大約16度温度を下げる効果を示した路面温度の測定結果を紹介し、地球温暖化や東京五輪・パラリンピックの暑さ対策に有効なことを説明した。また、

建設&コンサルタント事業本部建設第2事業部第3グループの松本哲哉グループ長が「親杭、ネル工法を用いた道路災害復旧工事の施工事例」について発表した。

講評した加藤所長は、「新

技術はなかなか広がらない。継続することが大事だ。異常気象の影響で今後は困難な工事が増えると思う。知恵を出して解決してほしい」と激励した。

続いて、同社と精工コンサルタント、大和地研のグループ各社で大きな業務成果を上げた優秀技術者や功労者、工事評点優秀者、資格取得者の表彰式、新入社員の紹介が行われた。